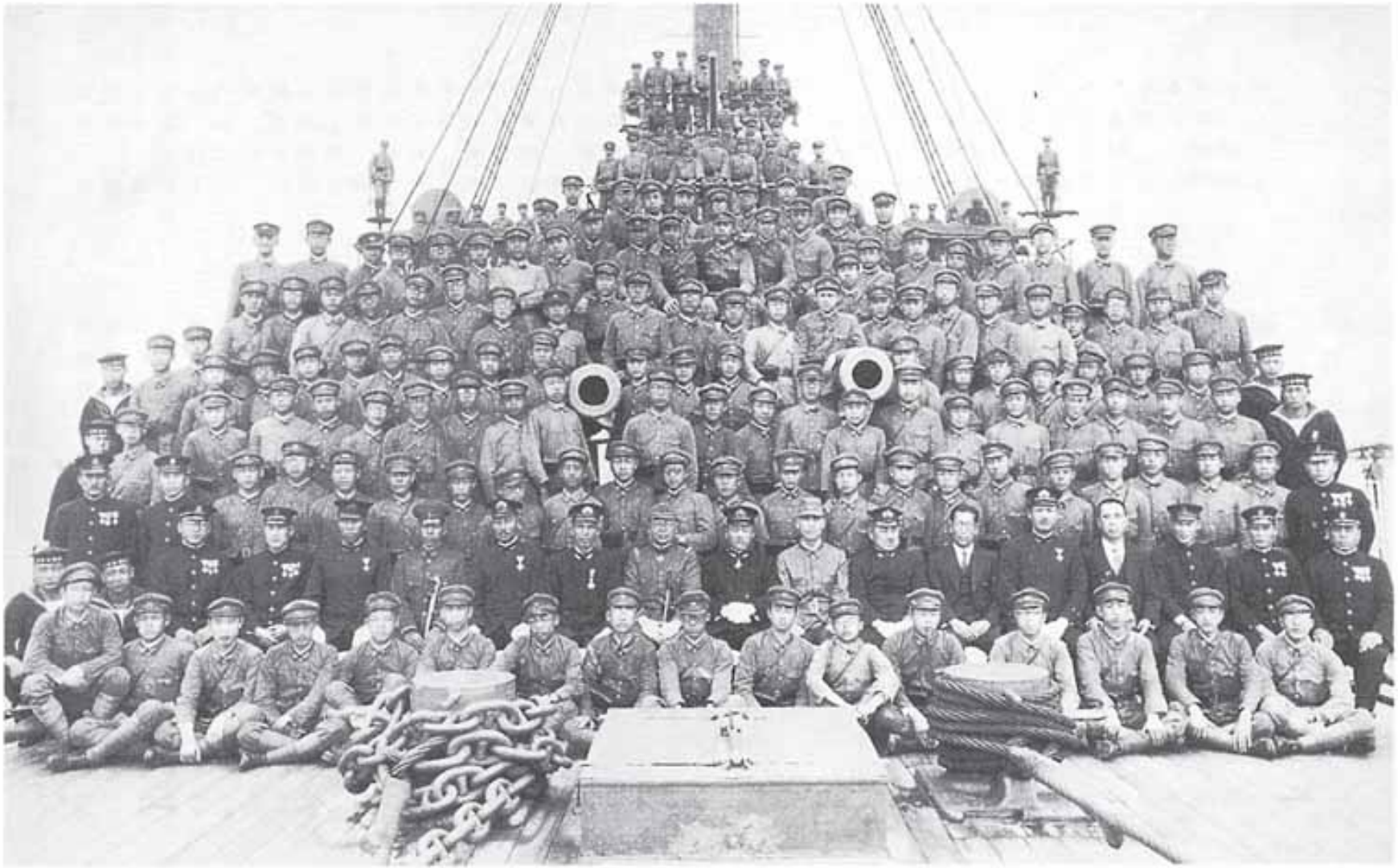
三中の思い出

三中31回　西八條　實

私は京三中というものに、なつかしさを禁じ得ない。在学中は、五年間が長過ぎて，うんざりした様な記憶はあるが、旧制中学の五年間というのは子供から大人になる過渡期であるので、その間に経験した事はみな、印象深いことだったと思われる。兄も三中の第二五回卒なので、余計かも知れない。

三中というのは、一中に比べると進学合格率が格段に低かったので、世間の評価は必ずしもあまり高くなかったが、先生方は大変素晴らしい方々許りであった。私達学年の担任の先生方も、英語の森永先生。数学の藤田先生．国漢の大塚先生〔「嵯峨野の表情」の著者〕同じく由里先生〔後半の庭球部長〕等、実に教育に熱心な先生方ばかりであった。

藤森校長、数学の小針先生、生物の清水先生、英語の岡本先生〔前半の庭球部長〕、歴史の楠先生、国語の小寺先生〔低学年の時、特にお世話になった。〕物理の豊原先生、化学の先生



昭和14年5月　五年生全員　軍艦「吾妻」にて　　提供　吉田　功

二列目中央が細谷海軍大佐、筆者（西八條）は五列目左より八人目

〔お名前が思い出せない〕、本当にいい先生方にめぐり会えたと思う。そして体操の国府田先生、吉松先生、教練の五十嵐先生、伊東先生、きびしい乍ら皆、気持ちの底に暖かいものがあった様な気がする。

そして上級生と下級生との関係も結構楽しめたし人生の大事な時期にいい雰囲気であったと思う。人生を経験してみると、矢張り親はどうしても甘い所があるし、兄や姉の方が少しはきびしい所があって、人間形成に役立った所があるが、最近は少子化で兄弟姉妹が殆どいないのでむしろ重要なのは学校の上級生だろうと思う。特に部活等していると非常に大きい。然しこれも六・三・三制になってしまって、三年生時の受験勉強等考えると、三年生が後輩の指導をする余裕は余りないであろうし、二年生と一年生とだけでは、先輩後輩の指導を受けられる状況ではないのではないかと思えて仕様がない。大事な高校、中学校の時の上級生の指導が乏しいというのは、今の若い人達の致命傷ではないだろうか。最近、中高一貫校が出来てきているので、あるいは将来には希望がもてるかも知れない。また、少子化が解消されれば、それに越した事はないが。まあ然し、三中はいいとこでした。